

Topics1. 鳥獣被害対策技術向上研修を実施しました。(防護柵)

Topics2. アナグマによる被害が急増しています。



2023

7

Vo.44

# 鳥獣センター通信

発行元 鳥獣被害対策支援センター ☎0985-44-1816

## Topics1

鳥獣センターでは、鳥獣被害対策マイスター等を対象として、被害防止対策の適切な知識の普及や、現地における技術定着等を目的に研修を実施しています。今回は、6月に実施した防護柵研修について、ご紹介します。

### (1) 座学

鳥獣被害対策資材メーカーのタイガー株式会社九州支店の担当者を講師に、電気柵の基礎知識や設置上の注意点、安全な使用方法などについて、勉強しました。

また、今回は新しい組として、遠隔地の受講生を対象にリモートで研修を実施しました。

### (2) 現地研修

場内展示ほ場において、電気柵とワイヤーメッシュ柵の設置実習を行いました。暑い中でしたが、皆さん夢中になり作業に取り掛かり、正しい設置方法について学ぶことができました。

また、設置後は、参加者から多くの質問が寄せられ、防護柵に関する関心の高さがうかがえました。

### ★最後に★

研修全体を通し、実際の現場で活用できる技術を学ぶことができました。鳥獣センターでは、『柵を設置したらOK』ではなく、維持管理の重要性について、普及を図ってまいります。



## Topics2

みなさん、『アナグマ』について知っていますか？



### 【アナグマ被害】



最近特に報告が多いのは、【ビニールハウスへの侵入】です。イチゴやマンゴーなどが大好物なアナグマは、甘い匂いに引き寄せられてやってきます。上の写真は、穴を開けて侵入する瞬間を捉えたものです。人間に慣れたアナグマは、日中でも堂々と行動します。

### 【対策方法】

いきなり柵を張る、捕獲を試みるのではなく、順番を守る必要があります。

- (1) 餌となる残渣を捨てない！
- (2) 柵で囲う。
- (3) 捕獲する。

アナグマに有効な柵や捕獲方法については、鳥獣センターまでお問い合わせください。



### 【アナグマの特徴】

- 体長は約60cm
- 出産は春（地域差あり）
- 主に夜行性（日中は巣穴で過ごすことが多い。）
- 雑食性
- 指は5本
- 光沢のある糞をする。



ずんぐりした体型で、何とモかわいらしい見た目です。しかし、近年、このアナグマが農家さんの悩みの種となっているので、ご紹介します。

## 豆知識（センサーカメラについて）



放任果樹に動物が集まる証拠（シカ、サル）



みかん泥棒の犯人捜し



電気柵の効果確認（シカが感電する瞬間）

野生動物の行動を知るために必要なセンサーカメラ。実際、どのような用途で使用するか、ご存じでしょうか？

センサーカメラは様々な種類がありますが、2万円以下（SDカード込み）の価格でも十分な性能があり、購入しやすくなっています。興味のある方は、鳥獣センターまでお問い合わせください。

# ☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

## 西臼杵地域

### ①活動概要

西臼杵地域では、令和4年度から水稲や牧草への被害が多発している高千穂町「五ヶ所集落」をモデル集落として位置づけ、鳥獣被害防止対策を進めています。

### ②活動内容

鳥獣被害対策を行う上で重要なのは、集落全体で取り組むことです。そのため、いきなり防護柵を立てたり、捕獲するのではなく、まずは集落全体で鳥獣被害について知識を習得することから始める必要があります。五ヶ所集落では、柵の設置前に、生産者全員で被害が発生する原因や、設置するワイヤーメッシュ柵の管理方法について勉強会を開催しました。

また、柵の設置場所が近い生産者ごとにグループを作り、柵設置後の草管理や点検の実施時期などの計画を作成するとともに、実際に被害がある場所や柵設置時に注意する場所を地図に落とし込みました。

### ③活動の成果

グループワークでの検討を元に、被害が多い場所や設置が危険な箇所に注意しながら柵を設置することができました。

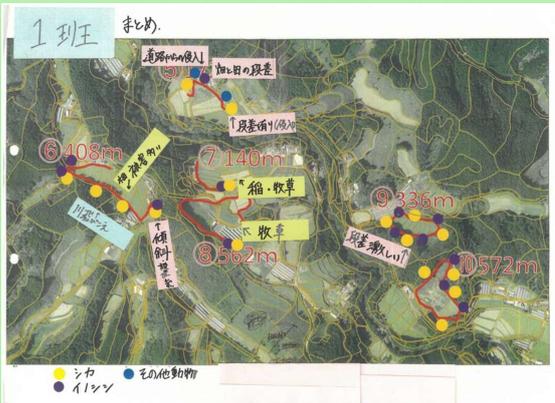
また、当初に集落全体に対する勉強会を実施したことで、鳥獣被害対策の意識醸成が図られ、取組体制の強化に繋がりました。

### ④今後の取組

防護柵の定期的な点検が被害を減らすことに繋がるため、令和5年度も引き続き、五ヶ所集落に対して、被害状況確認や研修会の開催など集落全体の点検体制の強化を支援して、被害発生ゼロを目指していきます。



①勉強会



②被害検討マップ

## 中部地域

高岡町和石地区は、山間部の獣害全般の被害を受けやすい地区ですが、住民の対策意識が高く、各種取り組みを住民自らが実施している、管内でもモデル的な地域です。

今回はその地区に設置した鳥獣被害防止対策のための設備について紹介します。

当地区に設置した「電落（でんらく）くん」は、ネットと電気柵を組み合わせた設備で、獣害全般に効果があることが知られています。比較的安価で、自己資金でも導入しやすい設備となっています。

設置に向けて地元リーダーと専門技術員が協議を行ったところ、地元リーダーから、「イノシシへの対策を強化するため、電気柵の位置は通常の電落くんの位置（ネット上部）でなく、ネット下部が良いのではないかと」との意見があったため、下部に電気柵を設置することとなりました。

令和4年11月29日に、約6a、外周110mに地域住民の方と地域特命チームメンバー、専門技術員とで協力して設置し、その後、3月まで圃場の状況を継続して確認しましたが、獣害は確認されませんでした。

これまでさまざまな鳥獣害対策に取り組んできた地元リーダーからも、「この設備であれば獣害全般への効果は期待できると思う。」という意見を得ることができ、今後地域への波及を期待しています。



① 設置時の様子

② 設置完了時の様子

③ 3月確認時の様子